

II. 「SIH 道場～アクティブ・ラーニング 入門～」の取組

1. 平成 27 年度「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の実施

1) SIH 道場の概要

SIH 道場は、徳島大学の 1 年次学生全員が前期に受講する初年次教育科目であり、各学部・学科で設計したアクティブ・ラーニングの手法を導入した授業において、学生は (1) 専門分野の早期体験、(2) ラーニングスキルの習得、(3) 学習の振り返りを行う。教員は本授業の担当を通して、アクティブ・ラーニングの手法を学び、授業実践の省察を行う。平成 27 年度 SIH 道場においては、学部 1 年生 1324 名が受講し、188 名の教員が授業を担当した。

SIH 道場の授業設計は各学部・学科単位で行い、「授業設計コーディネーター」が責任を担う。授業設計コーディネーターは、(1) 専門分野の早期体験、(2) ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の習得、(3) 学習の振り返りの SIH 道場の三つの必須要素を組み込んだ授業を設計する。

授業の概要

SIH道場

～アクティブ・ラーニング型初年次科目～

SIH道場とは、徳島大学の1年次全員が前期に受講する初年次教育科目で、①専門分野の早期体験、②ラーニングスキルの習得、③学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることを主な目的としています。授業内容は、各学部の事情に合わせて授業を設計し、学部教員が授業を担当します。

キーワード：専門分野の早期体験、アクティブ・ラーニングスキルの獲得、eポートフォリオによる学習の振り返り

◆授業の設計手順

授業は、各学部・学科の事情に合わせて、個別に設計を行います。授業設計の責任者は、「授業設計コーディネーター」であり、その選出や当該学部の状況把握等は専門委員会委員が行います。また、授業設計においては、総合教育センター教育改革推進部門教員とコンテンツ作成ワーキンググループのメンバーが、設計のための支援を行います。

授業内容は、各学部・学科の専門に即して個別に計画されますが、上記の目的を踏まえることと、学生がアクティブ・ラーニング型授業を体験し、自らの学習経験を振り返ることを通じて、学習の計画や実施をしていくための能動的学習の基礎を身につけるような要素を盛り込みます。そのために、下記の内容を必須項目として実施します。

- ①専門分野の早期体験
→先端研究、現場体験、臨床体験、先輩からのメッセージ等
- ②ラーニングスキルの習得（反転授業・グループワーク等の実施）
→文章力・プレゼンテーション力・協働力
- ③学習の振り返り（eポートフォリオによる省察）
→学習内容の省察・記録、学生、教員間での共有等

※①～③をそれぞれが関連し、スキルの習得と体験が同じフィールドで習得できるように体系的に組み立てます。

◆授業のひな形（1つの例）

※より詳細なひな形は別紙

(1) 導入：大学での学び・動機づけ

①先輩の声「テーマ：○○学科における大学での学びと○○技師」（講演or映像）
→その内容について、レポートとして文章にまとめる。
グループでコンテンツを作り、プレゼンテーションを行う。
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

(2) ラーニングスキル入門：学習を行う上で共通する基本技能の習得

①文章の書き方
→反転授業事前学習：レポートの書き方入門
→対面授業：(1)で作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

②プレゼンテーションの仕方
→反転授業事前学習：効果的なプレゼンテーションの仕方
→対面授業：(1)で実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

③グループワーク（他者との協働）
→反転授業事前学習：アイデアの発想・収束（KJ法）
→対面授業：KJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

(3) 早期体験：○○分野の先端研究・現場体験

①○○現場体験
→その内容について、レポートとして文章にまとめる。
グループでコンテンツを作り、プレゼンテーションを行う。
ルーブリックを用いたピア評価を行う。
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

2) SIH 道場の各アクターの役割

SIH 道場の実施にあたっては、大学教育再生加速プログラム (AP) 実施専門委員会、各学部・学科の授業設計コーディネーター、各学部・学科の授業担当者、総合教育センター教育改革推進部門、SIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループが、授業計画から準備、実施、振り返りまでの過程において、以下のようなそれぞれの役割を果たしている。

SIH道場 ～アクティブ・ラーニング型初年次科目～

	授業計画 10月～2月	準備 2月～3月	実施 4月～9月	振り返り 10月～12月
大学教育再生 加速プログラム 実施専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> ◆AP事業全体像の把握 ◆コーディネーターの選出 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の準備状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の実施状況の把握 (特に自学部) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り (全体運営) ◆シンポジウムの開催 ◆報告書の作成
授業設計 コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の授業概要の把握 ◆授業設計 (目的・目標・スケジュール・教材・評価等のシナプスの作成) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業担当者の選出 ◆SIH道場担当者FDに参加 ◆授業準備・スケジュール等の最終確認など、実施するために必要なことすべて 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業担当者の支援 ◆授業実施状況の把握 ◆自身の授業を振り返り、eポートフォリオを活用した省察 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り ◆自己評価シートの作成 (自部局) ◆シンポジウムでの報告
授業担当者		<ul style="list-style-type: none"> ◆授業準備・スケジュール等の最終確認など、授業を担当するために必要なことすべて ◆SIH道場担当者FDに参加 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業の実施 ◆学生のポートフォリオに対するコメント等のフィードバック ◆自身の授業を振り返り、eポートフォリオを活用した省察 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り (自クラス) ◆授業設計コーディネーターへの報告
総合教育センター 教育改革推進部門	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業設計の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆FD・説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆随時相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り (全体) ◆シンポジウムでの報告 ◆報告書の作成 (運営・支援)
コンテンツ作成WG	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業設計の支援 ◆反転授業コンテンツ、教材、ワークシート、eポートフォリオ、評価ツール等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆反転授業コンテンツ、教材、ワークシート、eポートフォリオ、評価ツール等の作成 ◆担当者へ使い方の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ◆随時相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り (コンテンツ) ◆報告書の作成 (コンテンツ)

3) 授業設計コーディネーターの役割

各学部・学科の授業設計コーディネーターは、プログラム単位で授業設計を行い、目的・目標の設定、スケジュール、教材、評価方法の設定等を行うという中心的な役割を担う。その際には、「授業設計概要」、「授業設計詳細」をフォーマットに従い作成し提出する。加えて、授業担当者を選出し取りまとめを行いながら、連携して授業運営を行う。授業の実施後には学生アンケートを行い、教育改革推進部門による集計結果等を参考にしながら、「プログラム設計評価シート」のフォーマットに従い、実施したプログラムを振り返り自己評価を行い、課題を明確化し次年度の改善点を具体的に記述する。全プログラムの実施内容やその成果と課題については、SIH 道場の全てのプログラムが終了した 11 月頃に開催する「SIH 道場振り返りシンポジウム」において共有を行う。

4) 平成 27 年度の SIH 道場プログラム

平成 27 年度の SIH 道場については、①総合科学部（人間文化学科・社会創生学科・総合理数学科の 3 学科合同）、②医学部医学科、③医学部医科栄養学科、④医学部保健学科（看護学専攻）、⑤医学部保健学科（放射線技術科学専攻）、⑥医学部保健学科（検査技術科学専攻）、⑦歯学部（歯学科・口腔保健学科の 2 学科合同）、⑧薬学部、⑨建設工学科、⑩機械工学科、⑪化学応用工学科、⑫生物工学科、⑬電気電子工学科、⑭知能情報工学科、⑮光応用工学科の計 15 プログラムが展開された。プログラムごとの SIH 道場授業設計の三つの必須要素の内容については、表のとおりである。

平成 27 年度 SIH 道場プログラム

学部	学科	①体験学習	②ラーニングスキル			③振り返り
			文章力	プレゼン力	協働力	
総合科学部	人間文化学科 社会創生学科 総合理数学科	大塚美術館見学	・読書レポートの作成 ・体験学習レポートの作成	基礎ゼミナールにおいて共同でプレゼン作成・実施		プロダクトへ教員がコメントし、学生が振り返りを行う
	医学部	・診療現場体験 ・振り返りWS	振り返りWS終了後にレポート作成	振り返りWSでKJ法を用いて班単位でプレゼン・討議		学生が振り返りを行い教員がコメント
医学部	医科栄養学科	先輩の講演の聴講 （「チーム医療入門」）	WS時にKJ法で出た意見をまとめる	作成したプロダクトに基づきプレゼン	班単位でWSを行いプロダクト作成	学生が学んだことを書き、教員がコメント
	保健学科（看護）	「先輩からのメッセージ」聴講	講義および書かせたもののピア評価	「先輩からのメッセージ」でのプレゼンを評価	仕事に対する将来像についてKJ法ワーク	学生が振り返りを行い教員がコメント
	保健学科（放射）	先端研究の体験	体験学習のレポート作成	報告会でのプレゼン	短期研究室配属での協働作業	学生が振り返りを行い教員がコメント
	保健学科（検査）	「先輩からのメッセージ」聴講	レポートを書かせピア評価	「チーム医療入門」でのプレゼンのピア評価	「チーム医療入門」でのKJ法ワーク	学生が振り返りを行い教員がコメント
歯学部	歯学科	・「気づきの体験学習」 ・「相互歯磨き学習」	・「アカデミック・ライティング入門」聴講 ・読書レポート作成	「PBL・TBL入門」でのプレゼン ・「高齢者交流学習」でのプレゼン	「新入生研修」でのコンセンサスゲーム、ワールドカフェ	学生が振り返りを行い教員がコメント
	口腔保健学科					
薬学部	薬学共通	先輩の講演（「チーム医療入門」）	・WS時にKJ法で出た意見をまとめる ・最終レポート作成	作成したプロダクトに基づきプレゼン	班単位でWSを行いプロダクト作成	学生が振り返りを行い教員がコメント
工学部	建設工学科	現場や研究室訪問	体験学習のレポート作成・ピア評価	体験学習でのプレゼンのピア評価	専門分野のトピックでKJ法	学生が振り返りを行い教員がコメント
	機械工学科	「機械基礎実習」での技術体験	「合宿研修」での書き方指導	「合宿研修」で、グループ作業でディベートを準備・実施		学生が振り返りを行い教員がコメント
	化学応用工学科	・地引網・清掃活動 ・調査・実験	教員が設定したテーマで、グループで発表要旨を作成・発表			グループワークでの自己評価に教員がコメント
	生物工学科	①先輩の声 ②監染体験	体験学習①のレポート作成・ピア評価	体験学習②についてのプレゼン・ピア評価	体験学習②についてKJ法・ピア評価	学生が振り返りを行い教員がコメント
	電気電子工学科	企業等の見学	体験学習のレポート作成・ピア評価	体験学習後に5名程度の半ごとに協働してプレゼン・ピア評価		学生が振り返りを行い教員がコメント
	知能情報工学科	「研究室見学ガイダンス」	体験学習のレポート作成・ピア評価	IT関連の研究内容に関するプレゼン・ピア評価	専門分野のトピックでKJ法・ピア評価	学生が振り返りを行い教員がコメント
	光応用工学科	作品製作	体験学習のレポート作成・ピア評価	体験学習でのグループ製作を行い、プレゼン・ピア評価		学生が振り返りを行い教員がコメント